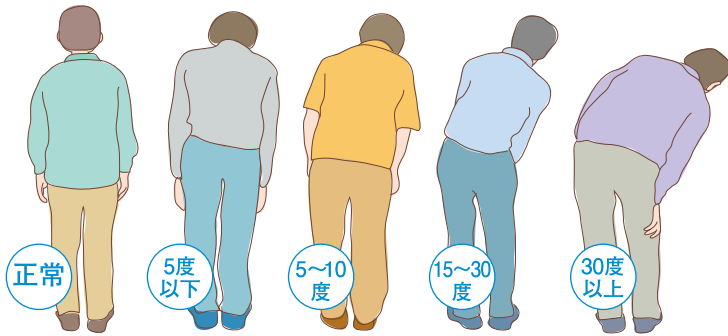


# パーキンソン病の話:あれこれ

## 姿勢異常2:身体が傾く



【図】側屈症の程度(正中線からの傾き角度)

### 身体が左右に傾く 「ななめ徴候」

前回は腰曲がりの話でしたが、今回は身体が左右に傾くことについて話します。

人間の姿勢で背骨が完全に垂直なことはありませんが、パーキンソン病では左右どちらかに傾きます。パーキンソン病の発病は左右どちらから始まります。これは脳内のドパミン神経の減少でも左右差があることで証明されます。

傾く症状は「ななめ徴候」、あるいは、傾いていることで有名なピサの斜塔にちなんで「ピサ徴候」とも呼ばれます。しかし、傾く側に関しては「発病した側に傾く」とか「症状の重い側に傾く」とはいえません。

図は患者の傾きの実際ですが、程度はさまざまです。重症になると背骨の変形(「側湾症」)を起すこともあります。私たちの全国7病院での約1000人の患者の調査では、軽症から重症まで入ると約50%の患者が側屈(ななめ)姿勢を示し、5度以上の傾きは約16%でした。側屈が重症な患者は、椅子に座るとしばしば身体全体が傾くようになります。

### 原因はさまざま

原因としてはジストニア説、つまり身体の半側の筋肉の緊張が不均衡を生じているためだと理解さ

れます。また、パーキンソン病治療薬でも、精神病の治療薬でも、この症状がまれに、比較的急に誘発されることがあります。脳内のドパミン神経のバランスを崩したためだと想定されています。この場合には原因薬物を中止すれば元に戻りますが、徐々に生じてきた場合には中止しても回復は無理です。

また、患者は自分の身体が空間の中でどのような姿勢をとっているかという自己認識能力の障害があると考えられています。ベッドに寝ているときでも、床の上で、ななめに寝ていることは比較的に観察されます。